

# 景 気 動 向 調 査

( 第 145 回 )

2007 年 1 月 ~ 3 月 期 実 績

2007 年 4 月 ~ 6 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

- 1．実施時期 2007年3月下旬～2007年4月上旬
- 2．調査対象期間 2007年1月～3月期実績  
2007年4月～6月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 219通（回答率 54.75%）  
<内訳> 製造業 67社 建設業 56社 卸・小売業 96社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について  
(2) 設備投資の動向について  
(3) 資金繰りの状況について  
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

#### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

## ～ 県内景況感 2 期連続下向く ～

2007 年 1～3 月期の岩手県内企業の景況感 D I は、全体で 52.5 と前期 43.0 より 9.5 ポイントほど下向きとなった。

先期調査で下向きに転じた景況感は今期も下向きとなり、緩やかながら持続してきた持ち直しの動きに、足踏みの状況が窺える。県内では地域間の格差が鮮明となるなど、全体として一進一退の動きとなっており、4 月以降の景気反応要因の動向が注目される。

項目別に前回調査時（2006 年 10～12 月期実績）と比較してみると、収益動向および資金繰り状況は全業種で下向いており、設備投資の実施状況も下向きに転ずるなど、停滞の状況がみられた。売上高（出荷高）も 2 期連続で下向きとなったが、業種間でバラツキがみられるほか、製造業の生産高は上向くなど、一部には改善の動きもみられる。次期見通しは、景況感は全業種上向くものの、売上高、収益、資金繰り等で下向く予想となっており、改善基調が持続されるか注視したい。

国内経済をみると、企業収益の改善を背景として設備投資は引き続き増加している。住宅建設は振れを伴いながらも増加基調で動いており、鉱工業生産も内外需要の増加から緩やかに増加している。倒産件数は横ばいで推移しており、企業の景況感も改善されてきている。雇用情勢は厳しさが残るものの、新卒者等を中心に良化の動きがみられ緩やかに改善されてきており、個人消費も横ばいながら底堅い推移となっている。また、日銀の金利引上げにより、短期市場金利は上昇したが、長期金利は低下しており、株価も世界同時株安の影響で一時下落したものの落ち着きを取り戻している。国内企業物価、消費者物価は各々横ばいの動きとなっている。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は前年水準を上回って推移しており、設備投資も増加基調で動いている。雇用情勢は依然低い水準ながら少しずつ改善してきている。しかし、公共投資は低い水準の推移となり、住宅建設、個人消費は盛り上がり欠け停滞状況が続いている。全体としては緩やかな回復基調の動きが持続しているが、一部には厳しい状況がみられる。

< 参考 >

### 岩手県内企業「景況感 D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感 D I
1	第 124 回	01 年 10～12 月	91.2
2	第 109 回	98 年 1～3 月	90.6
3	第 111 回	98 年 7～9 月	90.0
4	第 108 回	97 年 10～12 月	89.7
5	第 110 回	98 年 4～6 月	89.3

（1971（昭和 46）年以降）

## 1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では 52.5 と前期比9.5ポイント下降し、1年3ヵ月前の水準である 50 台となった。各業種別のD Iをみると、卸・小売業では3.9ポイント上昇したが、製造業が21.0ポイント、建設業が16.8ポイント下降し、全体を大きく押下げる結果となった。

4~6月期見通しは、製造業と建設業で10ポイント以上上昇する見通しとなるなど、全業種で上向き見通しとなっている。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

D Iが、製造業と建設業では上昇しプラスの水準を維持したが、卸・小売業は大きく下降している。

### (2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は上昇しプラスの水準を維持したが、卸・小売業の仕入高は下降しマイナスの水準となっている。

### (3) 在 庫

製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫ともに下向きとなっているが、総体的には在庫状況に大きな変動はみられない。製造業の原材料在庫水準に比較すると、卸・小売業の商品在庫水準では過大とする企業の比率が高い。

### (4) 収 益

全業種で下向きとなり、全体では3期振りに下向きとなった。4~6月の見通しでは、製造業と卸・小売業では上向きが、建設業が26.2ポイントと大きく下向いている。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は下向きに転じており、仕入価格も5期振りに下向きとなったが、D Iは29.2とプラスの高い水準で推移している。

## 3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は19.1%と下向きとなっており、特に建設業の実施状況が低かった。来期は製造業が大きく上向き見通しとなっている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」「生産・販売能力の増加」の割合が引続き高くなっている。

## 4. 資金繰り状況について

全業種で下向きとなっており、特に製造業の下降幅が大きい。しかし、来期の見通しについては、製造業だけが上向き予想となっている。

## 5. 経営上の問題点について

上位の4項目、「売上・受注不振」「過当競争」「収益不振」「販売価格安」は変わっていないが、「原材料・仕入価格高」が製造業で比率が高く2位となっている。

# 1. 県内景況感について

～ 2期連続して下向き ～

〔1～3月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が6.9%（前期9.4%）、「悪い」が59.4%（同52.4%）で、DIは52.5（同 43.0）と、9.5ポイント下降した。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 47.0（同 26.0）、建設業が 58.9（同 42.1）、卸・小売業が 52.6（同 56.5）と卸・小売業だけが上昇し、製造業と建設業は各々で21.0及び16.8ポイントと大きく下降している。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が10.1%、「悪くなる」が52.1%であることから、DIは 42.0となり、1～3月期実績と比較すると指標は10.5ポイント上向き。

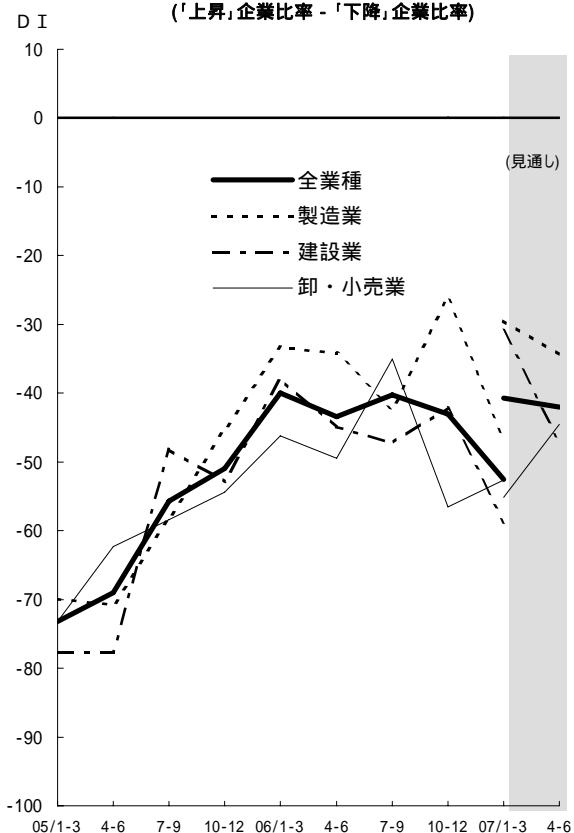
業種別にみると、製造業が 34.4、建設業が 47.2、卸・小売業が 44.5となっており、1～3月期実績と比較して全業種で上向き見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		（％）					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	1～3月 (実績)	0.0	6.9	33.7	33.6	25.8	-52.5
	4～6月 (見通し)	1.0	9.1	37.8	33.0	19.1	-42.0
（製造業）	1～3月 (実績)	0.0	9.1	34.8	27.3	28.8	-47.0
	4～6月 (見通し)	1.6	12.5	37.4	29.7	18.8	-34.4
（建設業）	1～3月 (実績)	0.0	5.4	30.3	42.9	21.4	-58.9
	4～6月 (見通し)	0.0	5.5	41.8	32.7	20.0	-47.2
（卸・小売業）	1～3月 (実績)	0.0	6.3	34.8	32.6	26.3	-52.6
	4～6月 (見通し)	1.1	8.9	35.5	35.6	18.9	-44.5

県内景況感(前年同期比)

（「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率）



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 2期連続で下向きマイナスの水準へ ～

**[1～3月期の実績]** 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が37.5%(前期39.0%)、「減少」が43.8%(同38.1%)となり、DIは△6.3(同0.9)と7.2ポイント下向き、マイナスの水準となった。

業種別にDIをみると、**製造業**10.5(前期7.7)、**建設業**5.4(同3.4)、**卸・小売業**△25.0(同△6.0)となっており、製造業と建設業が上昇したのに対し、卸・小売業が大きく下降している。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が31.4%、「減少」が42.4%であることからDIは△11.0で、1～3月期実績と比較して4.7ポイント下向き予想となっている。

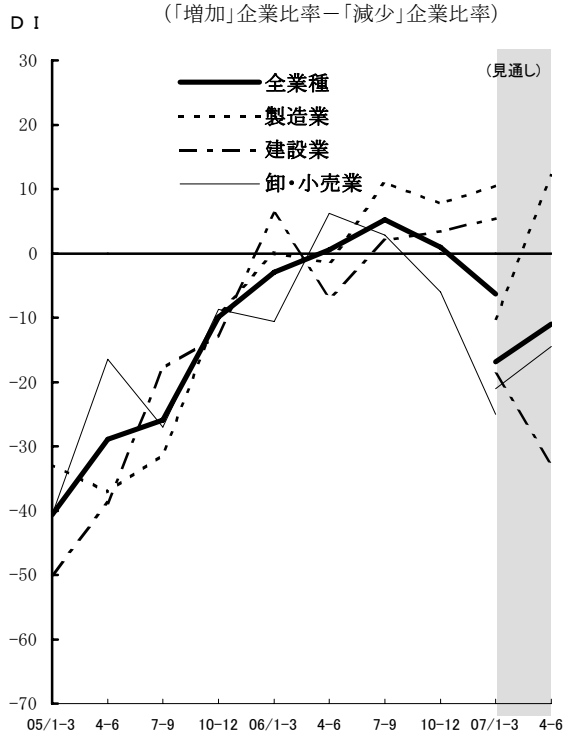
業種別にDIをみると、**製造業**で12.1、**建設業**で△32.7、**卸・小売業**で△14.5となっており、1～3月期実績と比較して製造業と卸・小売業で上向き見通しとなっているが、建設業では38.1ポイント大きく下向きしている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	1～3月(実績)	7.8	29.7	18.7	25.1	18.7	-6.3
	4～6月(見通し)	2.8	28.6	26.2	30.0	12.4	-11.0
(製造業)	1～3月(実績)	9.0	34.3	23.9	22.4	10.4	10.5
	4～6月(見通し)	3.0	40.9	24.3	22.7	9.1	12.1
(建設業)	1～3月(実績)	12.5	30.4	19.6	19.6	17.9	5.4
	4～6月(見通し)	3.6	21.8	16.5	34.5	23.6	-32.7
(卸・小売業)	1～3月(実績)	4.2	26.0	14.6	30.2	25.0	-25.0
	4～6月(見通し)	2.1	24.0	33.3	32.3	8.3	-14.5

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



## (2) 生産高または仕入高

### ～ 製造業の生産高上向く ～

**[1～3月期の実績]** 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が46.2%（前期34.6%）、「減少」が37.3%（同32.0%）で、DIは8.9（同2.6）と上向きとなっている。

**卸・小売業**（仕入高）では、「増加」と答えた企業は28.8%（前期41.3%）、「減少」が43.3%（同40.2%）で、DIは△14.5（同1.1）と下向きマイナスの水準となっている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が36.3%、「減少」が31.8%であることから、DIは4.5で、1～3月期実績と比較して4.4ポイント下向く見通しとなっている。

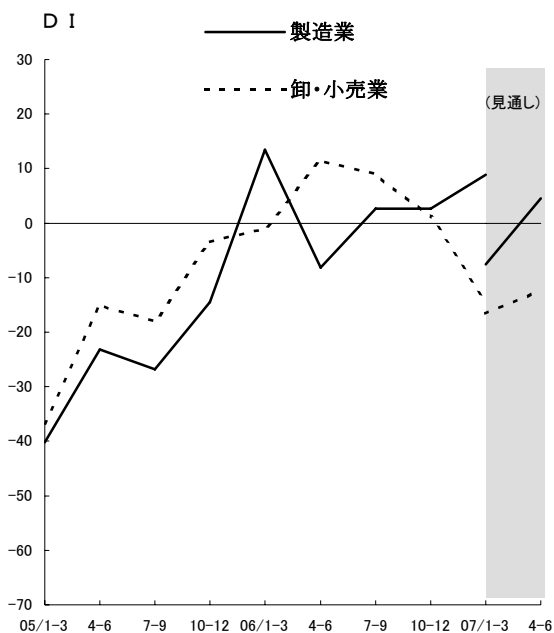
**卸・小売業**（仕入高）については、「増加」と答えた企業が25.6%、「減少」が37.8%であることから、DIは△12.2となり、1～3月期実績と比較して2.3ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
(製造業)	1～3月 (実績)	11.9	34.3	16.5	26.9	10.4	8.9
	4～6月 (見通し)	3.0	33.3	31.9	22.7	9.1	4.5
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	4.4	24.4	27.9	24.4	18.9	-14.5
	4～6月 (見通し)	0.0	25.6	36.6	30.0	7.8	-12.2

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率－「減少」企業比率)





(3) 在 庫

～ 製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫とも下向き ～

【1～3月期の実績】 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は12.5%（前期9.5%）、「減少」が32.8%（同27.1%）であることから、DIは△20.3（同△17.6）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が6.9%（同11.6%）、「適正」が81.1%（同75.4%）、「不足」が12.0%（同13.0%）である。

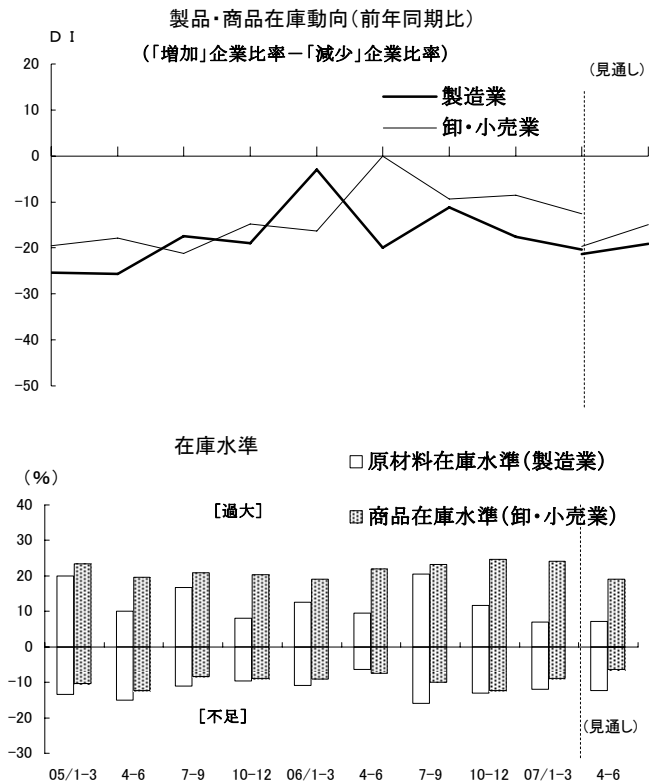
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が15.9%（前期18.9%）、「減少」28.4%（同27.4%）であることから、DIは△12.5（同△8.5）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が24.1%（同24.7%）、「適正」が67.0%（同62.9%）、「不足」が8.9%（同12.4%）である。

【4～6月期の見通し】 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が11.1%、「減少」が30.2%で、DIは△19.1となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が7.1%、「適正」が80.6%、「不足」が12.3%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が12.6%、「減少」が27.5%であることから、DIは△14.9となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が19.0%、「適正」が74.7%、「不足」が6.3%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	1～3月 （実績）	4.7	7.8	54.7	28.1	4.7	-20.3
	4～6月 （見通し）	3.2	7.9	58.7	28.6	1.6	-19.1
（卸・小売業）	1～3月 （実績）	2.3	13.6	55.7	17.0	11.4	-12.5
	4～6月 （見通し）	0.0	12.6	59.9	21.8	5.7	-14.9



(4) 収 益

～ 3期振りに下向きに転じる ～

**[1～3月期の実績]** 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が27.1%（前期27.6%）、「減少」が46.8%（同42.1%）であり、D Iは△19.7（同△14.5）となり3期振りに下向きに転じた。

業種別にD Iをみると、**製造業△10.4**（前期△3.8）、**建設業△21.9**（同△15.8）、**卸・小売業△25.0**（同△22.0）となり、全業種で下向きとなっている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が21.9%、「減少」とみる企業が43.9%であることから、D Iは△22.0で、1～3月期実績と比較して2.3ポイント下向く見通し。

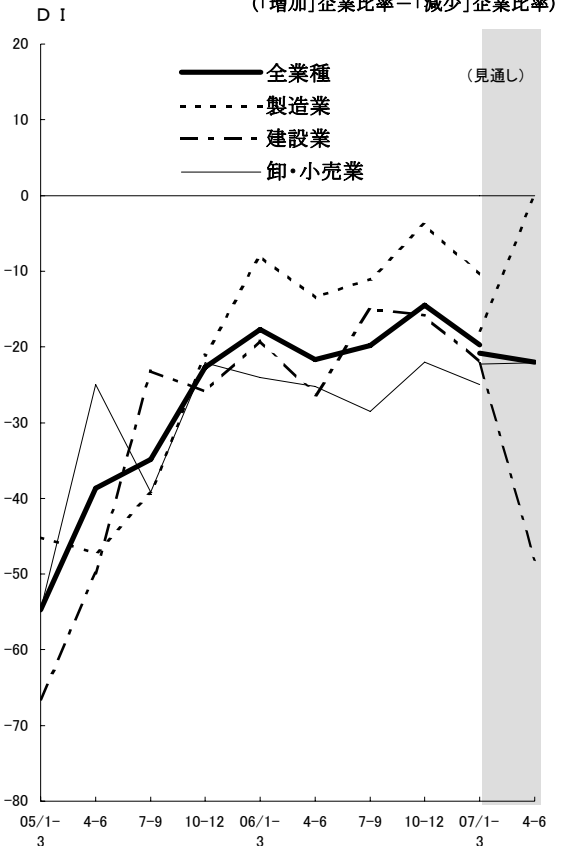
業種別にD Iをみると、**製造業は0.0**、**建設業△48.1**、**卸・小売業△22.1**であり、1～3月期実績と比較して、製造業と卸・小売業で上向く見通しとなっているが、建設業は26.2ポイント大きく下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I
全業種	1～3月 (実績)	3.7	23.4	26.1	22.9	23.9	-19.7
	4～6月 (見通し)	0.9	21.0	34.2	27.1	16.8	-22.0
(製造業)	1～3月 (実績)	4.5	28.4	23.8	20.9	22.4	-10.4
	4～6月 (見通し)	1.5	30.8	35.4	18.5	13.8	0.0
(建設業)	1～3月 (実績)	3.6	21.8	27.3	16.4	30.9	-21.9
	4～6月 (見通し)	0.0	11.1	29.7	29.6	29.6	-48.1
(卸・小売業)	1～3月 (実績)	3.1	20.8	27.2	28.1	20.8	-25.0
	4～6月 (見通し)	1.1	20.0	35.7	31.6	11.6	-22.1

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格のD I 5期振りに下向く ～

**[1～3月期の実績]** 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が15.6%（前期18.5%）、「低下」が25.8%（同22.4%）であることから、D Iは△10.2（同△3.9）と下向きとなった。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が37.5%（前期43.5%）、「低下」が8.3%（同7.3%）であることから、D Iは29.2（同36.2）と5期振りに下向きに転じたがプラスの高い水準で推移している。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が15.1%、「低下」とみる企業が21.3%であることから、D Iは△6.2で、1～3月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が31.6%、「低下」とみる企業が8.6%であることからD Iは23.0となり、1～3月期よりは下向く見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

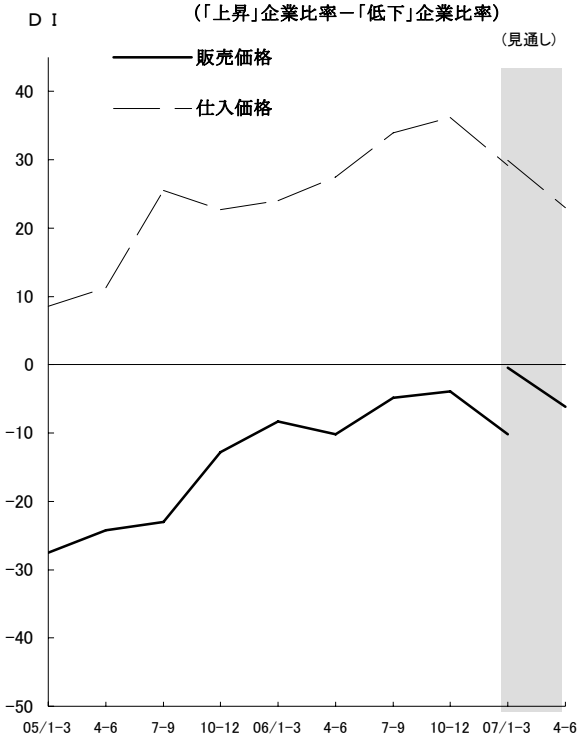
		D I					
		（％）					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	1～3月 (実績)	1.8	13.8	58.6	17.5	8.3	-10.2
	4～6月 (見通し)	1.4	13.7	63.6	15.6	5.7	-6.2

仕入価格(前年同期比)

		D I					
		（％）					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	1～3月 (実績)	7.9	29.6	54.2	6.9	1.4	29.2
	4～6月 (見通し)	4.8	26.8	59.8	6.7	1.9	23.0

価格動向(前年同期比)

(「上昇」企業比率-「低下」企業比率)



### 3.設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

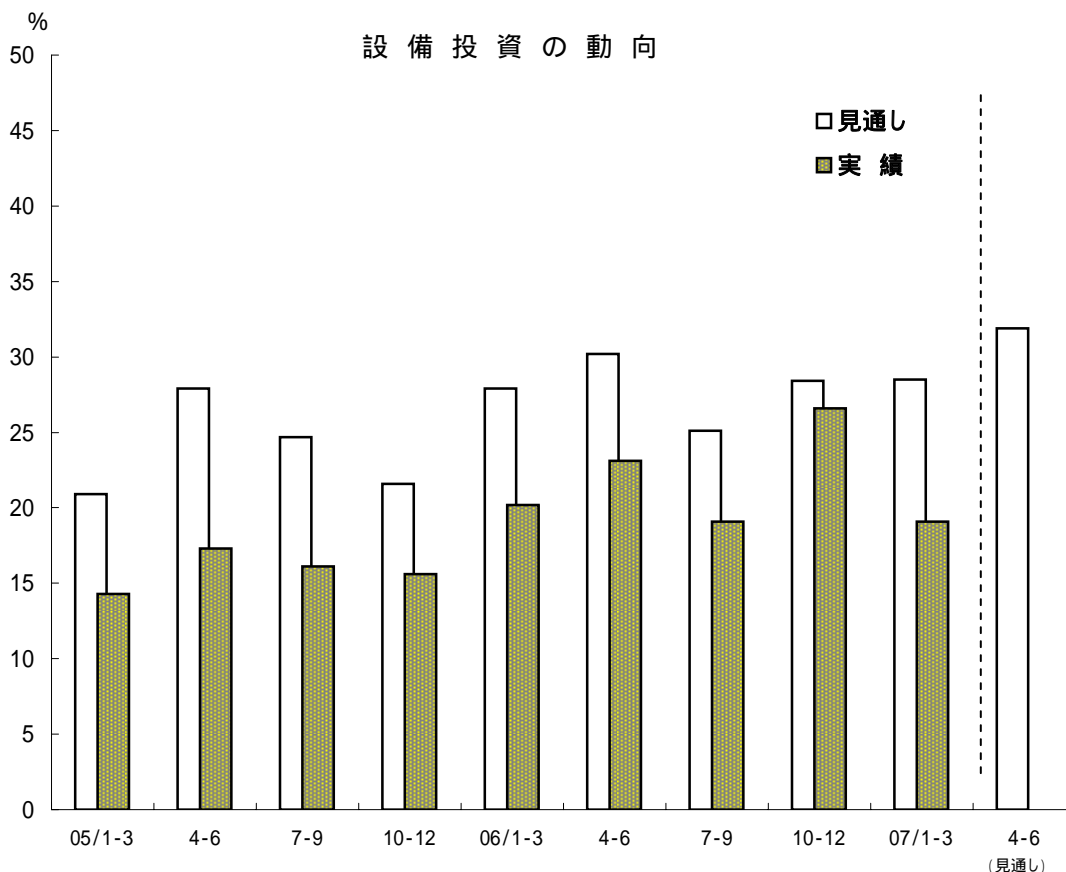
～ 全業種で下向く ～

[1～3月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は19.1%（前期26.6%）で、下向きに転じている。

これを業種別にみると、製造業が29.7%（前期34.2%）、建設業7.1%（同22.4%）、卸・小売業19.0%（同23.2%）と、全業種で下向いた。

[4～6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で18.8%（前期13.8%）、「計画はあるが具体化していない」は13.1%（同14.7%）、「計画はない」は68.1%（同71.5%）であった。「計画あり」は合計31.9%（同28.5%）と前期予想より上向く見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で46.2%（前期33.8%）、建設業で20.4%（同20.6%）、卸・小売業で28.7%（同29.0%）と、製造業が大きく上向いている。



## (2) 設備投資の目的

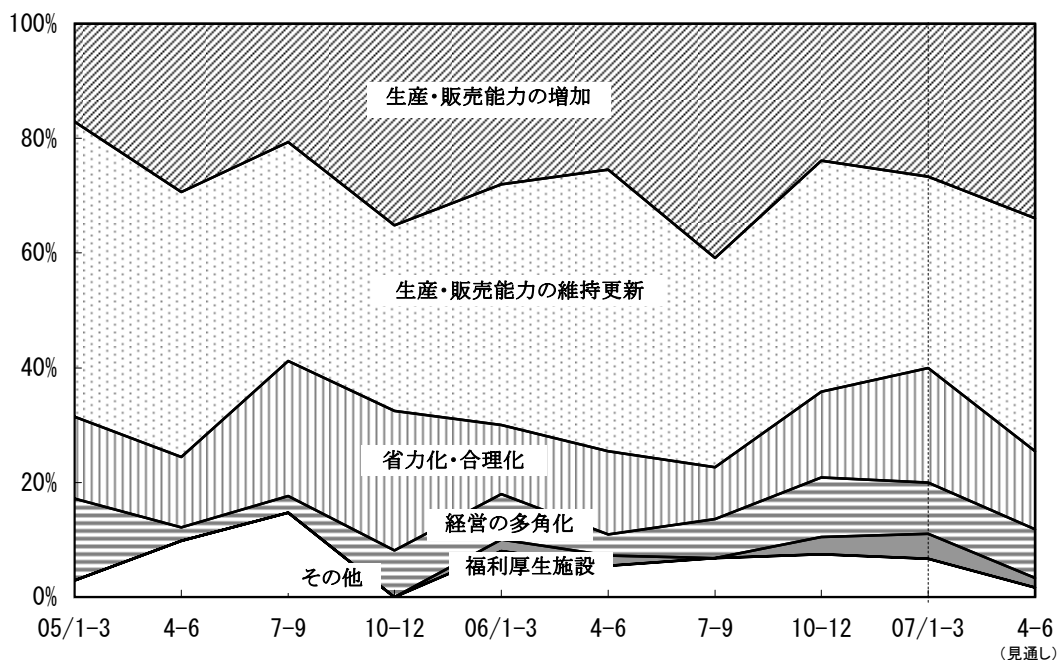
**[1～3月期の実績]** 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(19.1%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が33.3%（前期40.3%）の比率でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」が26.7%（同23.9%）で2位、「省力化・合理化」が20.0%（同14.9%）で3位となっている。

業種別にみると、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。「省力化・合理化」が上位で続いているが、建設業では「福利厚生施設」が2位となっている。

**[4～6月期の見通し]** 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(31.9%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が40.7%（前期44.4%）でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」33.9%、「省力化・合理化」13.6%、「経営の多角化」8.5%の順となっている。

業種別では、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。なお、建設業では「経営の多角化」が同率で2位となっている。

### 設 備 投 資 の 目 的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

#### ～ 全業種で下向き、厳しい見通し ～

**[1～3月期の実績]** 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が14.3%（前期18.7%）、「苦しくなった」が29.8%（同25.0%）であることから、D Iは△15.5（同△6.3）と下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業**が△18.1（前期△2.6）、**建設業**が△17.8（同△10.4）、**卸・小売業**が△12.6（同△6.8）で、全業種で下向きとなっている。特に製造業の下降幅が大きい。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が12.1%、「苦しくなる」が34.6%で、D Iは△22.5となり、1～3月期実績（△15.5）と比較して、下向き見通しとなっている。

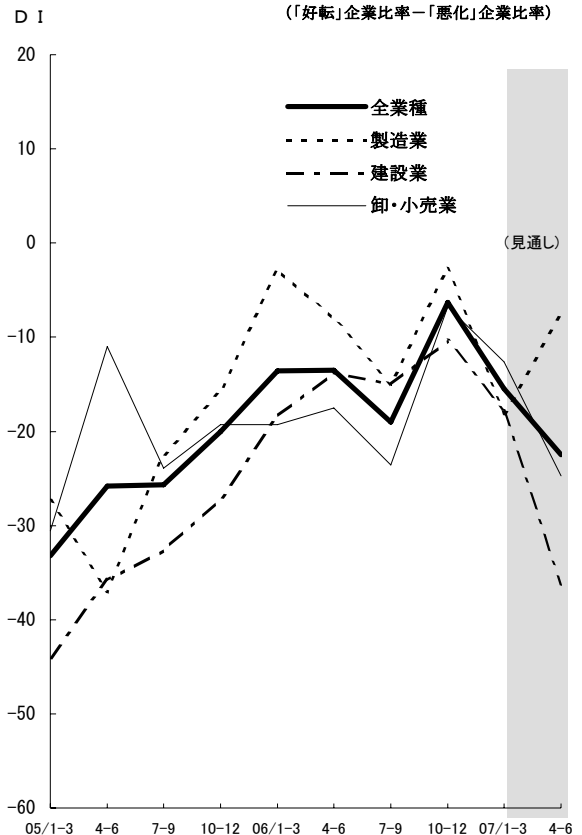
業種別にD Iをみると、**製造業** △7.6、**建設業** △36.3、**卸・小売業** △24.7となっており、1～3月期実績と比較して、製造業以外下向き予想となっている。

資金繰り(前期比)

		（％）					D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	1～3月 (実績)	2.8	11.5	55.9	21.1	8.7	-15.5
	4～6月 (見通し)	0.9	11.2	53.3	26.2	8.4	-22.5
（製造業）	1～3月 (実績)	6.1	6.1	57.5	25.8	4.5	-18.1
	4～6月 (見通し)	1.5	15.2	59.0	15.2	9.1	-7.6
（建設業）	1～3月 (実績)	0.0	14.3	53.6	19.6	12.5	-17.8
	4～6月 (見通し)	0.0	10.9	41.9	32.7	14.5	-36.3
（卸・小売業）	1～3月 (実績)	2.1	13.5	56.2	18.8	9.4	-12.6
	4～6月 (見通し)	1.1	8.6	55.9	30.1	4.3	-24.7

資金繰り動向(前期比)

（「好転」企業比率－「悪化」企業比率）



## (2) 現金・預金

**[1～3月期の実績]** 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が16.9%（前期16.5%）、「減少した」が33.4%（同34.3%）であることから、DIは△16.5（同△17.8）と上向いた。

**[4～6月期の見通し]** 1～3月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が12.9%、「減少する」が36.1%であることから、DIは△23.2（当期△16.5）と下向く予想となっている。

## (3) 金融機関借入

**[1～3月期の実績]** 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が20.0%（前期22.5%）、「減少した」が29.6%（同28.6%）であることから、DIは△9.6%（同△6.1%）と下向きとなった。

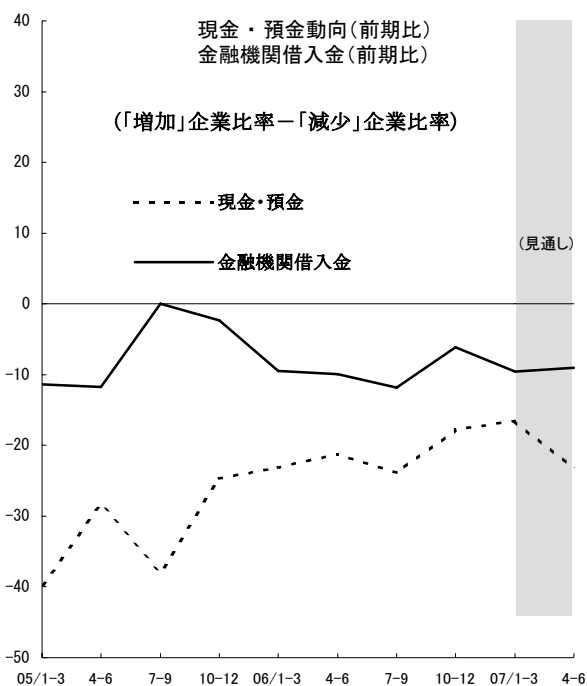
**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が18.0%、「減少する」が27.0%であることから、DIは△9.0（当期△9.6）と横ばいの予想となっている。

現金・預金(前期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	1～3月 （実績）	2.3	14.6	49.7	22.4	11.0	-16.5
	4～6月 （見通し）	0.9	12.0	51.0	25.9	10.2	-23.2

金融機関借入金(前期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	1～3月 （実績）	5.6	14.4	50.4	23.1	6.5	-9.6
	4～6月 （見通し）	2.8	15.2	55.0	23.7	3.3	-9.0



#### (4) 販売代金回収期間

**[1～3月期の実績]** 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が3.7%（前期7.7%）、「長くなった」が13.3%（同14.0%）であることから、D Iは△9.6（同△6.3）となった。また、83.0%（同78.3%）の企業は「変わらない」としている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が1.9%、「長くなる」が11.7%であることから、D Iは△9.8（当期△9.6）となる。また、86.4%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

**[1～3月期の実績]** 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が2.8%（前期3.9%）、「短くなった」が4.1%（同4.3%）であることから、D Iは△1.3（同△0.4）となった。また、93.1%（同91.8%）の企業は「変わらない」としている。

**[4～6月期の見通し]** 4～6月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が1.4%、「短くなる」が3.2%であることから、D Iは△1.8（当期△1.3）となる。また、95.4%の企業は「変わらない」とみている。

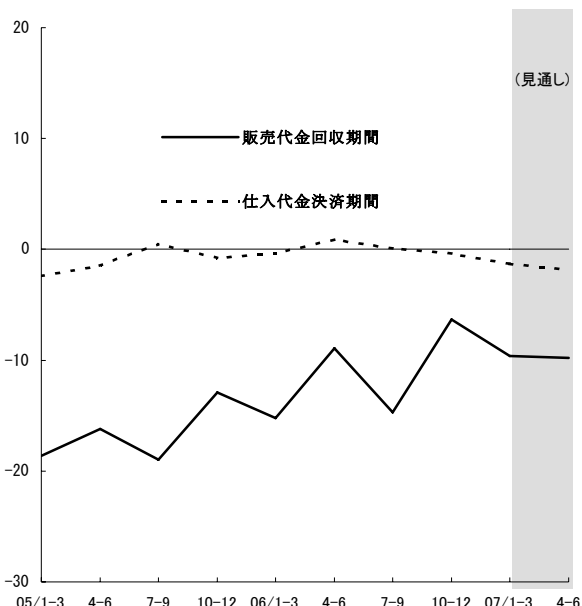
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	1～3月 (実績)	0.9	2.8	83.0	9.2	4.1	-9.6
	4～6月 (見通し)	0.0	1.9	86.4	8.4	3.3	-9.8

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	1～3月 (実績)	0.5	2.3	93.1	3.2	0.9	-1.3
	4～6月 (見通し)	0.5	0.9	95.4	2.3	0.9	-1.8

販売代金回収期間動向(前期比)  
 (「短くなった」企業比率-「長くなった」企業比率)  
 仕入代金決済期間動向(前期比)  
 (「長くなった」企業比率-「短くなった」企業比率)





## 5. 経営上の問題点について

### ～ 「売上・受注不振」が依然トップ ～

1～3月期における経営上の問題点をみると、**全業種**では「売上・受注不振」28.8%（前期28.7%）、「過当競争」17.7%（同17.5%）、「収益不振」13.1%（同15.7%）、「販売価格安」12.1%（同10.5%）、「原材料・仕入価格高」9.6%（同8.9%）の順となり、上位の項目に変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、**製造業**では①「受注不振」23.9%（前期28.7%）、②「原材料・仕入価格高」19.7%（同10.9%）、③「過当競争」と「販売価格安」が同率で9.4%。**建設業**では①「受注不振」34.7%（同34.3%）、②「過当競争」17.8%（同24.8%）、③「収益不振」14.9%（同18.1%）。**卸・小売業**では①「売上不振」29.2%（同27.6%）、②「過当競争」21.6%（同20.4%）、③「収益不振」14.6%（同15.5%）となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「過当競争」「収益不振」「販売価格安」が上位を占めているが、製造業では「原材料・仕入価格高」が2位となり比率が高くなっていることが目を引く。

